



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：中東和平シリア・トラックの動向

(10月29日付現地各紙)

10月29日付イスラエル各紙は、28日にアサド・シリア大統領及びバラク国防相が交渉再開の意志を述べたと報じた。概要は以下のとおり。

1. 10月28日、バッシュール・アサド・シリア大統領は訪問先のクロアチアでの記者会見で、シリアがイスラエルとの和平交渉を交渉中止の段階から再開できるよう欧州諸国に支援を求めた。また、交渉再開に当たっては、第三者のプレゼンスが不可欠であると述べた。メシッチ・クロアチア大統領は、交渉再開を支持すると共に、イスラエルの安全を保障しながらゴラン高原をシリアに返還すべきであると述べた。
2. 同日、バラク・イスラエル国防相はアサド発言に対し、シリアとの和平実現は周辺地域の安定の中核であり、イスラエルは今後とも同国との和平促進の道を模索し続けると述べた。又、イスラエル北部の治安維持には、シリア及びヒズボラの責任ある行動が求められていると付言した。
3. 先週、メシッチ・クロアチア大統領は、第二回大統領会議に出席するためにイスラエルを訪問し、ネタニヤフ首相及びバラク国防相とも会談していた。
  - (1) メシッチ大統領は、バッシュール・アサド・シリア大統領と親しい関係にあると述べ、同大統領の交渉再開の意思を伝えた他、イスラエルとシリアの交渉をクロアチアのブリオニ島で再開することを提案していた。
  - (2) ネタニヤフ首相は、前提条件なしでシリアと直接交渉の再開の用意があると述べた。又、ファーフィズ・アサド・前シリア大統領と交渉した事実からも、現大統領と交渉出来ない理由はないと述べた。